

1 病床機能区分変更の概要

碧南市民病院では、令和4年5月より入院患者の生活環境と職員の職場環境を改善するため病棟改修工事を行ってきたが、令和5年7月末で改修工事が完了し、8月1日より許可病床数255床で稼働している。

碧南市民病院は碧南市における救急医療及び急性期医療の中心的な役割を担っており、質の高い医療の提供を行っていくため、改修にあたって、新たにHCU（ハイケアユニット）4床を整備した。

急性期病床4床を高度急性期病床4床（HCU）に変更し、高度急性期機能4床、急性期機能206床、回復期機能45床の255床とする。

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
整備前(A)	0床 ()	210床 (一般)	45床 (地域包括)	床 ()	255床 ()
整備後(B)	4床 ()	206床 (一般)	45床 (地域包括)	床 ()	255床 ()
差引(B-A)	4床 ()	▲4床 (一般)	0床 (地域包括)	床 ()	0床 ()

2 愛知県地域医療構想における当該構想区域の記載内容及び現状

(参考事項：当該構想区域における直近の病床機能報告結果と必要病床数の状況)

愛知県地域医療構想における西三河南部西構想区域の総人口は、2025年には微増し、2040年には微減する。65歳以上の人口は増加となる。人口10万対の病床数は、県平均75.5%だが、療養病床数は県平均の115.5%と多く、精神病床数は35%と少なくなっている。

入院患者の自域依存率は、4機能区分全てが80%以上で、非常に高くなっており、近隣の二次医療圏からの流入も多く見られる。2040年まで65歳以上人口の増加率が県全体と比べて高いため、医療需要を見据えて、必要な医療需要や医療従事者の確保を始めとする包括的な医療提供体制を考えていく必要がある。

2021年の病床機能報告では、2025年の必要病床数と比べると、急性期機能の病床数が過剰で、高度急性期機能、回復期機能の病床が不足している。

<参考事項>

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	計
2025年における必要病床数	585床	1,703床	1,770床	940床		4,998床
2021年の病床機能報告結果	347床	2,461床	858床	931床	49床	4,646床
今回整備を計画する病床数	351床	2,457床	858床	931床	49床	4,646床